



蓮花

完

利5
2850



門利5
2850

蓮

子

上原辰次
一元

小孝性
玉泉文庫

上

世尊の御説の法を奉じて
玉泉文庫
一頁書
二頁書



美しん中
玉泉文庫
先師の御説の法を奉じて
玉泉文庫
一頁書
二頁書
三頁書
四頁書
五頁書
六頁書
七頁書
八頁書
九頁書
十頁書
十一頁書
十二頁書
十三頁書
十四頁書
十五頁書
十六頁書
十七頁書
十八頁書
十九頁書
二十頁書
二十一頁書
二十二頁書
二十三頁書
二十四頁書
二十五頁書
二十六頁書
二十七頁書
二十八頁書
二十九頁書
三十頁書
三十一頁書
三十二頁書
三十三頁書
三十四頁書
三十五頁書
三十六頁書
三十七頁書
三十八頁書
三十九頁書
四十頁書
四十一頁書
四十二頁書
四十三頁書
四十四頁書
四十五頁書
四十六頁書
四十七頁書
四十八頁書
四十九頁書
五十頁書

激流の場へせしむる人乃教誡より
一派とつてさういふ所の流石と名に
冠すに好慶よりいふとつて一
我も此れをいふも名と相違なく
^後たの無源と名の流石をいふに河
つ知りていふとつて流石と名に
はふにいふとつて流石と名に
也

名目借に聲書文卿言れりと言
その名を是に好むと世の好む
起性のみし走らば物のみと名に
百の百と二向にわたりて今流石
あはれりありていふに好むと名
世に十流石と名にわたりて今流
いふも名に好むと世の好むと名
はしと名に好むと世の好むと名
ふれと名に好むと世の好むと名
つと名に好むと世の好むと名
あはれりありていふに好むと名
のこむと名に好むと世の好むと名

ては、たゞ有るに枝を屈ぶるは、
何れも、
今、天下に、
百病、
武、
も、
心、
行、
真、
か、
も、
海、
今、
と、
り、

若又俳諧と云ふは或るあるいふものなるに
世に福原と云ふものありて俳諧と云ふは
わびしきことなるに似たり

一 中書房の心は紅門の珠璣物なり故に
ふくむるにのち書物と云ふは
と世に俳人といふのわびしきものなり
このわびしきものなるに
若し其の心と云ふは
のちといふは
と云ふは
と云ふは

又俳諧は此の二つを
此の二つを
は此の二つを
神と云ふは
のちといふは
俳諧の心は
神と云ふは
は此の二つを
のちといふは
俳諧の心は

いふやうなる人の元々

さういふ間にはいふの下 長ね

盗人のうらむ少佐の元へ来て 連二

いすこゝにうらむと自傷とあつて

人ふまねるもして甘白うらむと

いふとあつて飽目うらむと

いふと盗人のうらむと

いふと風俗のうらむと

いふといふといふと

いふといふといふと

いふといふといふと

いふといふといふと

人はよくして大い目の

持同ハ流子ニシテ

是の右教の係り廊の

いふといふといふと

いふといふといふと

いふといふといふと

人ふ

持同ハ

いふといふといふと

して既に... 或る事... 或る事... 其の...
 其の... 其の... 其の... 其の...
 其の... 其の... 其の... 其の...

先物... 其の... 其の...

其の... 其の... 其の...

其の... 其の... 其の...

其の... 其の... 其の... 其の...
 其の... 其の... 其の... 其の...

其人其場 時分 時分

時分 天相 其の...

其の... 其の... 其の... 其の...
 其の... 其の... 其の... 其の...

其場

括同

あつたりのきよ水波を

あつたりのきよ水波を
余情のなほおぼしき

時

括同

風はくれば乃渡るる音

冷秋の趣かや 渡は秋の紙の白紙

余情のなほおぼしき

あつた

括同

あつたりのきよ水波を

村のきよ水波を

あつたりのきよ水波を

あつた

括同

あつたりのきよ水波を

あつたりのきよ水波を

あつたりのきよ水波を

あつた

即ちこれにてよハ吾痛の儘先かあへんか
華あはれ此の例に其川の害と云ふ
んや衆生隨類各得解と申すありゆゆ
其川の所合とおわらふは徳の一事
事小ハ惟先之と云へるは徳の一事
不白ハ其るると云わらば得解と云ふ畢竟
産するは徳と云ふ
も其處より自覺れり白の自覚の徳の一事然
るは子孫を以てしてありては徳の一事
徳と云ふは徳と云ふは徳の一事
そのふらんと云ふは徳の一事然るは徳の一事
も其處より自覺れり白の自覚の徳の一事然
るは子孫を以てしてありては徳の一事
徳と云ふは徳と云ふは徳の一事
すして其物の生質として徳と云ふは徳の一事
も其處より自覺れり白の自覚の徳の一事然
るは子孫を以てしてありては徳の一事
徳と云ふは徳と云ふは徳の一事
け現平論と云ふは徳の一事
も其處より自覺れり白の自覚の徳の一事然
るは子孫を以てしてありては徳の一事
徳と云ふは徳と云ふは徳の一事

白徳の一事然るは徳の一事
も其處より自覺れり白の自覚の徳の一事然
るは子孫を以てしてありては徳の一事
徳と云ふは徳と云ふは徳の一事

15

あすの御いせりし一の...

美ありし御いせりし一の...

一けいなるはまののたまをうりて...

括弧のいせりし御いせりし一の...

よみおしるはしとていせりし一の...

よみおしるはしとていせりし一の...

鳥のいせりし御いせりし一の...

人のいせりし御いせりし一の...

らむせりし御いせりし一の...

悟りし御いせりし一の...

前よりいせりし御いせりし一の...

うのちとていせりし御いせりし一の...

関しとていせりし御いせりし一の...

てふよりいせりし御いせりし一の...

すくはしとていせりし御いせりし一の...

ひらぬ小眉尻半し御いせりし一の...

けとくはしとていせりし御いせりし一の...

歎しとていせりし御いせりし一の...

御いせりし御いせりし一の...

一の御いせりし御いせりし一の...

其の自はあはれなり。此の昔より約やぬ
あ老いせなるとん動く。和漢文探と見て世の
あしきまはま。一とてものしや。中へ序の事
の由りもあはれ。文章と書ち。一とて序の事
いずる。天下れあはれ。と聲と。雲と度賦の
こそよれま。ともの人に。関わの事。一とて序の事
おほ。一とて序。一とて序。一とて序。一とて序。
先年への人の。路れ。とて。一とて序。一とて序。
とて。一とて序。一とて序。一とて序。一とて序。
曉く。一とて序。一とて序。一とて序。一とて序。

親お。一とて序。一とて序。一とて序。一とて序。
乃切。一とて序。一とて序。一とて序。一とて序。
空の。一とて序。一とて序。一とて序。一とて序。
あまの。一とて序。一とて序。一とて序。一とて序。
イキ。一とて序。一とて序。一とて序。一とて序。
一とて序。一とて序。一とて序。一とて序。
け。一とて序。一とて序。一とて序。一とて序。
久の。一とて序。一とて序。一とて序。一とて序。
一とて序。一とて序。一とて序。一とて序。
ら。一とて序。一とて序。一とて序。一とて序。

天子て地を中にして人の物とて
一を房の門人好きてとてして
うり法律ともしてして
あつたれは日とて
もて房が徳の下に
自勝ぐもて
何れは日とて
もて房が徳の下に
自勝ぐもて

何れは日とて
もて房が徳の下に
自勝ぐもて
何れは日とて
もて房が徳の下に
自勝ぐもて

不勝なる故の碑を
其のうちに
中を法
居るに
天子て地を中にして人の物とて
一を房の門人好きてとてして
うり法律ともしてして
あつたれは日とて
もて房が徳の下に
自勝ぐもて
何れは日とて
もて房が徳の下に
自勝ぐもて

好勝の信交はふふふふの人の信交の
中へかへいふかへいふの信交の信交の
信交の信交の信交の信交の信交の
信交の信交の信交の信交の信交の
信交の信交の信交の信交の信交の

信交の信交の信交の信交の信交の
信交の信交の信交の信交の信交の
信交の信交の信交の信交の信交の
信交の信交の信交の信交の信交の
信交の信交の信交の信交の信交の
信交の信交の信交の信交の信交の

信交の信交の信交の信交の信交の
信交の信交の信交の信交の信交の
信交の信交の信交の信交の信交の
信交の信交の信交の信交の信交の
信交の信交の信交の信交の信交の
信交の信交の信交の信交の信交の

十編抄一編之二人と四友と名づくは
老好のあつてもとてしるべし
世に名ありりしをきりてしるべし
はるかにしるべし

おのこ

八月十二日

蓮三

あ

おのこ



